

鎮国寺

鎮国寺は、806年に空海(774~835年)が創建したと言われています。空海は、密教を学ぶために804年に中国へと渡った後、真言宗を日本に紹介した影響力のある僧です。その死後は、「弘法大師」として知られるようになりました。

伝説によると、空海は大嵐の中を中国に出航しました。彼は、仏と菩薩に祈り、宗像三女神に祈りました。宗像三女神とは、船旅をする人を守る三体の神のことです。

空海が祈ると、彼の前に不動明王の姿が現れました。不動明王とは、信じる者を守り悪霊を鎮める恐ろしい守護仏です。空海の船は、中国に無事到着しました。空海は、日本に戻ってくると宗像大社を訪れ、航海の無事を神々に感謝しました。鎮国寺は、不動明王と宗像三女神を祀っており、宗像三女神は三体の仏として祀られています。

宗像三女神は、大日如来、釈迦如来、薬師如来の姿で祀られています。仏教が6世紀に日本に導入されてから、神道の神と仏教の仏が重ね合わされることが多くなり、相互に入れ替えて描かれるようになりました。鎮国寺は、神道の宗像大社三宮のうち最も大きな辺津宮から見えるところにあります。宗像大社三宮は宗像三女神を祀っています。

鎮国寺の境内には、本堂、護摩堂およびそれより小さなお堂がいくつかあります。本堂には5体の仏像があり、うち3体は宗像三女神を表したものです。護摩堂では、不動明王を崇める火の儀式が行われます。森に囲まれた境内の小道は、弘法大師像の像や石碑の横を訪問者たちを誘います。

鎮国寺の主な行事の1つは、年に1回、4月28日に不動明王を記念して行われる儀式です。これは、一般の人が不動明王像を見ることができる唯一の機会です。この儀式では、火の周りでの祈祷などが

行われます。その後、参拝者は暖かい炭の上を歩いて厄払いをすることができます。この儀式は一般に公開されています。

鎮国寺の敷地では1年を通じて花が咲きます。1月には梅の花、春には桜・ツツジ・シャガ、そして初夏には紫陽花が咲きます。夏には蓮の花と彼岸花が咲きます。11月から12月には、カエデとイチョウの葉が赤や金色に染まります。